

“がけやま”からのつづやき (4)

—巣ごもりの中で博物館から心の栄養を…お届けします—

みなさまの気分転換にご一読いただければ幸いです。

前回までは、令和2年度から平成28年度までの5年間に開催した展示会の舞台裏をご紹介します。

今回はそのつづきということで、平成26年度開催の「平戸松浦家名宝展」を取り上げ、つづやきたいと思いません。

この展示会は、長崎県平戸市にある松浦史料博物館所蔵の名品をみなさまにご覧いただいたものです。松浦史料博物館は江戸時代の平戸藩主松浦家、つまり、大名家に伝来した資料を収蔵している博物館です。では、なぜ朝日町で松浦家の資料を展示したかと申しますと、小向出身の国学者橘守部が第十代藩主松浦熙まつらひろむに高く評価され、江戸の藩邸へ出入りを許されて藩主に学問を教授していたことによります。そのご縁もあり、また、松浦史料博物館の多大なご協力により企画が進み、開催することができました。もちろん、橘守部の資料も伝来しています。

展示品は、歴史上の著名人に関するものはもちろん、甲冑などの武具類、お姫様の婚礼調度品、美術工芸品、また、平戸は鎖国前にオランダやイギリスとの交易港であったことから対外貿易関係の資料など多岐にわたるもので、貴重な大名家伝来の資料をご覧いただける機会となりました。これらの資料は、当時の最高水準の技術により製作されたものが多く、素直に「素晴らしい」と感じてしまう作品ばかりでした。

そしてここからが裏話に…。展示した雑道具のことです。

この雑道具は、桑名藩主の父松平定信の娘である葵姫が松浦熙へ輿入れした際の婚礼調度品の一つで、当然、雑道具ですのでミニチュアですが、非常に精緻につくられたものでした。

その中に将棋盤と駒がありました。さて、この将棋セット、一工夫して展示いたしました。それは、1988年度NHK杯準々決勝、当時の羽生善治五段と今では「ひふみん」の愛称で親しまれている加藤一二三九段との対局、羽生五段が「伝説の5二銀」を指した場面を再現しました。このときテレビで解説していた米長邦雄九段うねが思わず「おー、おー、おおお」と唸ったほどで「神の一手」（諸説あります）とも、「伝説の名勝負」とも謳われているものです。

残念ながら、悲しいかな、この展示にお気づきになった来館者はゼロでした…。しかし、展示案内の際に将棋にお詳しい方に種明かしをすると喜んでいただきました。今なら、藤井聡太二冠のご活躍もあるので、もう少し盛り上がったかと…。

少し硬い話でしたのでもう一つ。

ちょうど展示会の会期中に俳優の小栗旬さんが主演の「信長協奏曲」というドラマが放映されていました。映画化もされました。あらすじは、現代の高校生サブロー（小栗さん）が戦国時代にタイムスリップして顔が瓜二つの本物の織田信長（小栗さん一人二役）と入れ替わって物語が進行していく、というものです。このサブローがタイムスリップした際に、一緒に日本史の教科書も戦国時代に持ち込まれます。この教科書は本物ではなく、あくまでドラマ上の小道具なのですが、掲載されている写真は松浦史料博物館所蔵の名品たちで、ドラマの重要な場面に登場しておりました。

という、旬な裏話がありましたので、ドラマを観ているだろうという世代の来館者の方に「あのドラマに出て来る教科書の写真、それを所蔵している博物館からお借りしている名品たちですよ。」とご案内すると、一層興味を示してご覧いただいたり…、ということがありました。

この展示会は、朝日町出身の国学者橘守部から大名文化、地域のつながり、そして、ちょっとした裏話…そのご縁で文化の広がりを現代に紡いだものです。

やはり、朝日町の歴史文化は楽しい、良いものです。（つづく）



ポスターで使用した平戸の写真。この写真をみて、なつかしい、とご来館された九州出身の方々もおみえになりました。